

平成 30 年度地域ぐるみで
「体験の風をおこそう」運動推進事業
第2回曾爾高原耐久リレーマラソン

1. 目的

チームで励まし合いながら、初冬の曾爾高原を気持ちよく走り、心身共に健康の増進とチームの結束を図り、同時に走ることの楽しさを参加者みんなまで共有する。



2. 実施日

平成30年12月1日（土）～2日（日）

3. 対象

曾爾高原スカイライン（一周1316メートル）を走りることができる小学生以上の家族・グループ。

4. 参加者（参加チーム数） /

募集定員（募集チーム数）

42名（6チーム） / 180名（20チーム）

5. プログラム（要約）

4人から112人のチームがリレーしながら、6時間・4時間でお亀池周辺（一周約1.3km）を何周走ることができるかを競う。

スケジュール

12月1日（土）1日目
オリエンテーション
自由時間（コース確認、散策、アスレチックなど）
夕飯のつどい
夕食
自由時間（卓球、星空観察、ナイトハイクなど）

12月2日（日）2日目
朝のつどい
朝食
6時間の部
4時間の部
フードコーナー開設
閉会式・表彰式

【1日目】

オリエンテーションで、リレーマラソンの実施方法や館内の利用方法について説明をした。その後の自由時間で、コースの確認をしたり体育館などで軽く運動をしたりチーム毎に自由に時間を過ごした。

【2日目】

朝食後、各チームでエイドコーナーを設け、9時に6時間の部の3チームがスタートをした。ほとんどのチームが一周ごとにリレーを行い、一周を6分前後という早いペースで走った。一周ごとのラップタイムを



ホワイトボードに記録して周回数を各チームで計測した。

11時に4時間の部の3チームもスタートを切った。今回は小学校の低学年の児童を含めた家族チームが多かった。一人で合計15周走った小学2年生もいた。6才から50代まで和気藹々とした雰囲気ではあるが、走る事に関しては、自分の持っている力を出し切ろうと真剣に取り組んだ。

11時30分からカレーやうどん・唐揚げなどのフードコーナーが設けられ、参加者は、交代で昼食を取りながら走り続けた。

お昼過ぎから、どのチームにも疲れが見え始めたが、他チームとの交流も進みチームの枠を越えた冗談が飛んだり、「がんばってますね」「ナイスラン」といった互いに励まし合う声が多く聞かれたりした。それに後押しをされてみんな歯を食いしばって走った。「ゴールまで残り1時間です。」と主催者が告げると、「さみしいなあ、ずっと走りに続けたいよ。」という声があがった。冗談ではあるが、みんなでリレーをして走ることが楽しいという気持ちの表れだろう。

15時のゴール時間まで残りあと数分。ラスト一周の場面になると、どのチームも全員で並んで最終ラップに向かった。そして、全員で手をつないでゴールテープを切った。参加者全員が互いのゴールに大きな拍手を送った。まさに走ることの楽しさを参加者全員で共有することができた瞬間だった。



6. まとめ

天候に恵まれ、穏やかな日差しの中、曾爾高原を満喫しながら、どのチームも途中リタイアすることなく時間いっぱい走りきることができた。参加者からは「子どもから大人まですごく楽しめた。」「次回も必ず参加します。」という声をいただいた。大会運営を工夫したりコース整備も進めたりして、リピーターの参加者が増えるように大会を育てていきたい。

（企画指導専門職 田中 耕司）